

2021年7月21日

(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
関西熱化学(株) 加古川工場

降下ばいじん 加古川製鉄所 自主管理目標値（環境対策効果の予測値）
未達成について

1. 5月の降下ばいじん実績について

加古川製鉄所では、2008年4月から粉じん対策の効果を確認するため、降下ばいじんに関して製鉄所影響値 $3.0\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ 以下（対象測定地点：加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の3箇所）の自主管理目標値（環境対策効果の予測値）を設定し、その達成に注力してまいりました。

各種の降下ばいじん対策を実施し、目標値を下回る実績を挙げてまいりましたが、5月の加古川神鋼ビル（以下神鋼ビル）の測定値が自主管理目標値未達成となりましたので、その内容について以下に報告いたします。

地域の皆様には大変ご迷惑・ご心配をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

<降下ばいじん 製鉄所影響値*1（加古川市測定）>

測定地点	単位	1月	2月	3月	4月	5月
神鋼ビル	$\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$	0.67	1.82	1.50	1.63	3.06
別府小学校	//	1.54	1.98	1.03	1.10	1.70
尾上小学校	//	0.10	0.22	0.71	0.38	1.29

2. 神鋼ビルでの未達成の原因について

神鋼ビルにおける降下ばいじん量の日々の測定では、5月20日の値が異常に高く、未達成の主要因と考えております。

20日は、ほぼ終日南寄りの強風で断続的な降雨がありました。降雨時は湿潤化されるため、粉じんの発生は低減しますが、製鉄所内の状況を確認した結果、鉄鉱石を事前処理する工場の一部で雨に濡れない場所にダストが堆積しており、これが強風で巻き上げられたと推定しました。

17年度の未達成の対策で導入した高所噴霧散水設備により、粉じんの飛散を抑制しております。しかし、降雨時は散水を停止し、一定時間後に再開する条件としていたため、降雨の合間に高所噴霧散水が停止したタイミングで所外に粉じんが飛散するという現象が繰り返し発生したものと考えています。

対策として、降雨時も十分湿潤化されない場所について、湿潤化や粉じんの除去等の対策を強化するとともに、降雨の合間も高所噴霧散水設備を運転することとします。

なお、日々のパトロールや点検において、これまで実施してきた降下ばいじん対策は継続できていることを確認しております。これらの対策に、今回の対策を加え目標値の安定達成に努めてまいります。

< (株)神戸製鋼所 加古川製鉄所長 北山 修二 コメント >

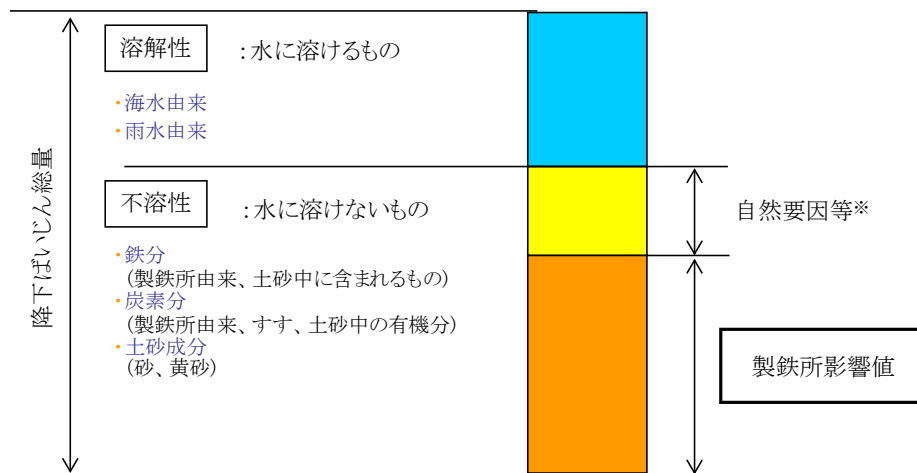
降下ばいじん対策は、製鉄所の重要課題の一つと位置づけ、これまで実施してきた低減対策の維持継続に気を抜くことなく取り組んできましたが、5月において自主管理目標値未達成となりました。対策を確実に実行し、安定して目標値を達成するよう注力してまいります。

< 関西熱化学(株) 加古川工場長 長谷川 幸英 コメント >

引き続き、社員一同降下ばいじん対策に努力し、安定して目標達成できる様に取り組んでまいります。

※¹製鉄所影響値

粉じんの管理を強化するため、製鉄所近隣で加古川市が測定している3ヶ所（加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校）の降下ばいじん量について、製鉄所影響値を $3.0\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ 以下とする自主管理目標値を定め、'08年4月から運用しております。製鉄所影響値の算出の考え方を図1に示します。運用開始前の10年間における製鉄所影響値の最大値は $6.6\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ であり、それを半減以下にするという目標です。



※ 自然要因等：環境監視センター、山手中学校、東神吉小学校、志方公民館、平荘小学校の不溶性降下ばいじん量の平均値。

図1. 目標値を設定する降下ばいじんの対象